

令和元年台風19号被害への対応状況等について（1月30日12:00現在）

台風19号で被害を受けた各地で情報共有会議が開催され、活動状況や課題などを共有し、解決に向けた連携が行われていましたが、復旧・復興の状況により、開催頻度や場所が変わってきています。福島県いわき市、宮城県丸森町に加え、今月は福島県郡山市でも市町域の情報共有会議が開催されました。JVOADからもスタッフが参加し、会議の中で共有された課題に対して関係団体と解決を図っています。

本日12:00時点で把握した状況についてご報告します。

○最新の被害状況（1月10日10時現在 総務省消防庁資料）

<https://www.fdma.go.jp/disaster/info/items/taihuu19gou64.pdf>

人的被害：死者99名（うち災害関連死2名）、行方不明者3名、重傷者38名、軽傷者342名

住家被害：全壊3,225棟、半壊28,811棟、一部損壊31,735棟、床上浸水7,776棟、床下浸水22,592棟

○情報共有会議の開催

JVOADのホームページでも各地の情報共有会議の開催予定一覧を定期的に更新しているので、あわせてご確認ください。

○現地の状況

①東北方面（宮城県・福島県）

- ・宮城県丸森町では、年末年始に仮設に支援に入った団体から、体調不良や今後の再建に向けた不安の声が住民から出ているという報告もあり、地域支え合いセンター含め、関係者が連携して対応していく
- ・今後のリソースを増やすために、技術系支援団体が大工仕事、重機、チェーンソー等の技術系講習会を宮城県丸森町で実施していく予定
- ・災害ボランティアセンターは週末型に移行している
- ・福島県郡山市では、社会福祉協議会が仮設団地入居の約100世帯の訪問を始めている

②北関東（栃木県・茨城県）

- ・栃木県では、台風19号での対応を含め、今後の県域のネットワークについても検討を始めている
- ・宇都宮市では、支援団体主催で住宅再建の講習会を実施している
- ・茨城県では、次回の協働型サロン「ぬくもりを届けるプロジェクト」の準備を行っている

③長野県

- ・2月から、情報共有会議の場所を変えて実施予定だが、被害の大きな地域では、地区単位での支援者会議も行われ始めている
- ・被災地での中学生向け学習支援が始まり、フードバンク、地元団体、企業の協力で、食事の提供も行われている
- ・県政タウンミーティングが実施され、住民、行政、長野災害時支援ネットワーク等も参加し、現在の困りごと、これからのことについて意見交換を実施

④千葉県

- ・地元NPOを中心に「千葉南部災害支援センター」が設置され、社会福祉協議会や技術系支援団体と連携しながら長期的にブルーシートの張り直しや倒木などの依頼に対応していくため、引き続き、講習会の開催に向けた調整をJVOADもサポートしながら行っている

○災害ボランティアセンター

複数の市町村で、引き続きボランティアセンターが開設（事前登録が必要）

開設状況については、全国社会福祉協議会 被災地支援・ボランティア情報をご覧ください

URL：<https://www.saigaivc.com/>

○今後について

JVOADとして、長野県にスタッフを常駐、その他の地域については出張ベースで対応しています。

地域支え合いセンターの設置などもされ始めていることから、JVOADとしても、地元団体への引継ぎも見据えながら、支援の「モレ・ムラ」のないように各関係団体、機関と連携して、引き続き、サポートしてまいります。